

卓 話

平成 16 年 11 月 2 日

岐阜市長 細江 茂光様

市長の元気通信！」

11 月 市長講話

これからの地方分権、あるいは都市間競争の中で、癒しやゆとりを与えることが地方都市の役割であると思う。

講話からの抜粋

皆さんこんにちは。

最初に災害についてですが、岐阜市は長良川を抱えていますので、いつ何時 水害が起こるか分からないことは皆さんご存知のとおりです。

それに加えて東海、東南海地震に備えて、しっかりとした対応をしていく必要があると思っています。

先般の台風 23 号では長良川上流の一部で溢水(いっすい)と言いまして、堤防から川の水が溢れた箇所が 3 箇所あり、25 名の方が救出されました。

私も災害直後に現地へ参りましたところ、多くの方々からいろいろなご指摘を受けました。

今、**三位一体改革**の中で補助金の削減について議論されています。

長良川は河口から日野までが国の直轄河川で国が管理しています。

日野から上流は県管理の河川で、県が国からの補助金等を使いながら管理をしている河川です。

先日、**地方 6 団体**が提出した改革案は、県管理の河川に対する補助金はいらないので、その代わり税源を移譲してほしいとの内容になっていますが、財務省は道路や河川などの公共事業は、国債で借金をしてお金を調達しているので、税源は無く移譲はできないと反論しています。

私は、河川は上流から河口まで水系として管理しなければいけないと思います。

道路はつくることが遅れたからといって命を落としたり、財産を失ったりすることはないわけですが、河川の場合は一旦氾濫を起こしますと人命に関わり、財産を失うので、河川管理は国防などに類する、かなり重要なものであると思っています。

ですから、**河川管理は水系として国の責任でやるべき**と思います。

先ほど申し上げた 3 箇所の溢水箇所は、県管理の河川です。

長良川だけではなくて、新潟や福井など河川が氾濫しているところがたくさんありますが、いずれも県管理の河川です。

ですから、県管理での河川管理は予算的なことも含め少し厳しいと思います。

三位一体改革は、地方分権を進める上でしっかりと行わなくてはいいませんが、やはり国がやるべき仕事、都道府県がやるべき仕事、市町村がやるべき仕事について、その役割をしっかりと分担すべきだと思います。



役割分担をまず見直して、それに伴った税源移譲をすべきと考えていますが、東京都知事も同じように河川の話をしておられ、同じ考えの方が何人かおられるのかなと思っています。

次に、**産業廃棄物不法投棄問題**に関連しまして、岐阜市は中核市であり、中核市以上の市は保健所を設置しなくてはなりません。

保健所設置市は、産業廃棄物について監督指導権限と責任があり、その中で、椿洞の問題が起きました。

10年以上にわたって、産業廃棄物が不法投棄されていることを見落としており、非常に大きな問題であります。

先週の新聞に、環境省はやはり中核市や政令市で産業廃棄物の監督指導をするのは無理があるのではないかとこのことで、**監督指導権限を都道府県に戻すことを研究している**との記事がありました。

これは地方分権の流れに逆らうとの議論もあるようですが、先ほど申し上げたように地方分権というのは、国と地方の役割分担の見直しをすることですので、今まで市町村がしていたことで本来国や県がすべきことであれば、それは決して三位一体改革の流れに逆らうものではないと思います。

いずれにしても、産業廃棄物の問題は**広域化**しています

岐阜市の椿洞に埋められている産業廃棄物も、他の県から排出されています。

また、**警察力の有無**についても産業廃棄物の監督指導について重要な要素だと思います。

先日、岐阜市の姉妹都市であるフィレンツェ市とウイーン市を訪問いたしました。

その際に、ドイツにも立ち寄ったのですが、大変印象に残ったことはドイツのミュンヘン市にごみの焼却場がありまして、煙突が4本あるのですが、4本のうち3本が稼動していないのです。

それはなぜかというごみが減ってしまっただけで、燃やすものが無くなったので、1本しか必要ないのだそうです。

ドイツはごみの減量化が非常に進んでいまして、ごみをどう処理するかではなくて、**物づくりの段階からごみを出さないように、ごみが少なくなるような生産をしています。**

また、買い物に行くときには全員が自分のバックを持ってスーパーへ行き、袋を貰ったりはしないのです。

デパートへ買い物に行くとデパートの梱包は人に物を送るときはきれいに包んでももらいたいけれど、自分の家で使うものをきれいに包んでもらってもごみになるだけです。

完全な資源の無駄ですから、**無駄を省き、ごみの減量化が大切**だと思います。

一方、**スローライフは何でも合理的にするのではなく、人間らしい生活をしようということ**であります。

先般、五木寛之さんの講演があり、今の世の中は、乾式社会だと言っておられました。

例えば、建築の工法も昔は湿式工法でしたが、今は乾式工法なのだそうです。

家を建てるときにセメントの粉と砂利を混ぜて壁を塗っていましたが、ところが最近は出来上がった壁をはめ込むなど現場で水を使う工法がほとんどなくなっています。

そして、**人間社会でも湿式社会から乾式社会に変わっている**とおっしゃっていました。

乾式の社会はカラカラに乾いており、非常にもろい社会です。

子供たちがいろいろな問題を起こすのも乾式社会の結果の一つとおっしゃっていました。

日本の文化は、かねてから泣くことを大切にしたり涙の文化です。

自分のために泣き、他人のために泣き、平和のために泣き、社会のために泣きました。

昔の先生や大人は涙を流しながら子供を叱りました。

医療についても、赤ひげ先生のイメージではなく、プラスチックの聴診器のように乾いた感じがします。

世の中をもっとウェットな湿式の社会にしようと呼びかけてみえました。

皆さんは産業界の方ばかりでありますから、スローライフなんてことを言っていたら日本が世界の中で遅れてしまうのではないと思われるかもしれません。

ところが、計算してみると我々が働いている時間はほんのわずかであります。

人生 80 年として、24 時間×365 日×80 年ですから約 70 万時間になります。

40 年間、1 日 7 時間働くとして計算をしますと約 7 万時間になります。

つまり人生 70 万時間の中で、働いているのは 7 万時間しかないのです。

ですから働く時間は必死に働けばいいのですが、その他の 70 万時間から 7 万時間を引いた 63 万時間は、睡眠時間等を除くと多くの時間は余暇であり老後であるわけです。

その時間をどう生きるのか、それがスローライフです。

戦後日本は大発展を遂げてきましたが、本来は個人が豊かで、充実した一生を送ることが大事だと思います。

個人の幸福を追求するために、効率のために組織を作り、それが企業であり、市や国であります。

皆さんは、個を押し殺しながら企業のため国のため一生懸命働いた結果、国は豊かになり、企業も豊かなりました。

ですから今度はそれを個人に還元しなければいけない。

私は「**個の復権**」を訴えておりますが、**本来人間が生きているのは、「個人が幸せで豊かになることである」ということを再確認する運動がスローライフだと思っています。**

昨年、金沢市や掛川市、この近郊では多治見市や美濃市などと一緒にスロー ライフの組織連盟を作りました。先週、金沢市で第 2 回目のスローライフサミットを行いました。行政もスローライフのコンセプトである**心の豊かさを追求するまちづくり**をしていく動きが出てきています。

これからの地方分権、あるいは都市間競争の中で、癒しやゆとりを与えることが地方都市の役割であると思います。

それぞれの都市の役割を認識して、まちづくりをしていかなければいけない。

岐阜市は小さな名古屋市になってはいけません。岐阜らしい環境や歴史、長良川や金華山を生かしたまちをつくって、名古屋で働いている方に岐阜に住んでもらう。

岐阜は名古屋のベッドタウンであるとか植民地であると言われて、卑下する必要はありません。

役割分担の必要があるのではないかと考えています。

最後に、**来年度予算編成**について話したいと思います。

岐阜市は平成 16 年度予算で約 1300 億円の編成であります。

そのほとんどが社会保障費や人件費など経常的に支出される経常支出と言われるものです。

地方の財政の弾力性を見る**経常収支比率**がありますが、80%を超えると危機的であると言われていいます。岐阜市の場合は 81.7%ですが、逆に言うと残りの 18.3%が、自由に使える、いわゆる政策経費として使えるということです。

しかし、平成 17 年の 3 月までの間に、地方交付税等が 50 億円以上国から打ち切れようとしています。

つまり、財源のうちの自由に使えるお金から 50 億円が 1 年で無くなってしまいます。

国は地方に交付するお金をどんどん減らしていきますから 1300 億円の予算を組みましても、新しいことは何もできません。

岐阜市の場合は、まだ財政調整基金を取り崩しながら生きていくわけですが、小さな市町では予算が組めないの、今ある施設やサービスをやめたり、売却したりすることがあるかもしれません。

今年の夏、笠松町が町営のプールを閉鎖しましたし、他の市町でも同じような事態が起きています。

三位一体改革案の結果を受けて、各市町は来年度の予算編成に取り組めますが、大変厳しい状況であ

ります。

例えば福祉関係でいうと、岐阜市では高齢者に、必要であってもなくてもバス優待券をお配りしていましたが、それよりも、本当に困っている人たちに**集中的にお金を使っていくことが有効になってくる**と思います。

私は市長に就任して3年目ですが、来年は4年目の集大成が必要だと思っています。

市長就任の1年目は皆さんからの話を聴こうと**「聴く」**ということに重要視しました。

「民間活力戦略会議」、「市政懇談会」、あるいは「ホンネトーク1000」を行い、いろいろなところでお話を伺いました。2年目は新しい岐阜市を**「描く」**、つまり岐阜市の新しい設計図を作りました。時代に即応した、市民の目線で見直した**総合計画**を今年の3月に作りました。

3年目の今年は**「築く」**であります。**市町村合併**の協議を進めていますが、合併によって地域が広がることもさることながら、新しい文化の風を得て、多くの人たちと一緒に新しいまちをつくっていくことができと思っています。

また、**岐阜駅前の再開発**があります。今年の12月頃に着工予定ですが、43階建て、163m、ちょうど金華山が329mですので、その半分の高さの**中部9県で最も高い居住系のビル**を建てることになっています。約1000人が住むことになりますが、県が高齢者用の有料賃貸マンションを予定していますし、岐阜放送さんも移ってくることになっています。

このビルは、**岐阜のランドマークとして、元気の素になる**と思っています。

4年目の来年をどういう年にするのか、来年度の予算編成にこれから入るわけですが、非常に厳しい状況であります。

いずれにいたしましても、市民の皆さんに対して、お金が無くなったのでこのサービス、あのサービスはやめますということは許されないので、**知恵を使って工夫して、民間でできるものはお任せして、少しずつ積み上げていかざるを得ない**と思います。

民間企業出身の市長だから、目新しいこと、素晴らしいことをしてくれるだろうと期待をされている気持ちはよくわかりますが、行政はそんなに簡単なものではありません。

今、岐阜市はいろいろな問題があり、皆さんにご心配いただいておりますが、憶することなく一生懸命頑張りますので、今後とも変わらぬご支援をいただきたいと思います。

ありがとうございました。